

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成21年度 第2回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)	教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時	平成22年3月29日(月) 10:00~11:30		
開催場所	川西市青少年センター 研修室		
出席者	委員	益満良一、多久和桂子、竹島 均、渡邊富夫、森田文英 井上克己、中井成郷、澁野敏彦、田村嘉規、佐伯直樹、岩木信夫 牛尾 巧	
	事務局	松岡寛一、上中敏昭、大谷啓史、中井裕子	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	1人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会 1. 会長あいさつ 2. 協議事項 (1) 平成21年度 川西市青少年センター事業総括 (2) 平成22年度 川西市青少年センター事業方針 3. その他 閉会		
会議結果	協議事項は(案)どおり了承		

運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭に委員の異動に伴ない新たに就任された委員に運営委員会会長の益満 良一教育長から委嘱辞令が交付された。

1、会長あいさつ

大変ご多用の中、第2回青少年センター運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。

平素より青少年の健全育成並びに非行防止に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

次代を担う子どもたちが、健やかに育つことは、全ての大人の願いであります。しかしながら、青少年を取り巻く社会環境は、必ずしも適切なものばかりとはいえない状況もございます。

近年、インターネット・携帯電話での有害情報また、出会い系サイトや書き込みサイトでのトラブル、育児放棄や児童虐待など極めて深刻であります。又、社会全体の規範意識の低下、家庭や地域の教育力の低下、青少年を取り巻く環境の悪化などが相互に絡み合い、より複雑化・多様化しているように思えます。それぞれの問題を検証し具体的な対応策を検討していくことが求められています。このような状況を踏まえ本日の第2回運営委員会が実り多い協議になることを期待しております。委員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

2、協議事項

〈事務局説明〉

(1) 平成21年度 川西市青少年センター事業総括

青少年補導委員会の活動

児童生徒への支援・指導と学校・警察・関係機関との連携

青少年の健全育成及び安全確保

情報発信と広報啓発

総括

事例2題 『継続的な支援』『生活の立て直しと学習習慣の見直しを目指した支援指導』

【質疑応答】

(会長)

協議事項(1)説明があったことにつきまして、質疑及び意見交換に入ります。

(委員)

家庭崩壊が非常に問題視されているが、子どもに無関心な親が多く見受けられる。そのような問題を抱える家庭から青少年センターに直接、相談はあるのか。

(事務局)

家庭から直接の依頼は少ないが、学校から連絡を受けるケースが多い。又、警察などで補導されたり問題行動を繰り返す子どもについては連携をとりながら支援指導にあたることもある。

(委員)

親が青少年センターの事業として「支援・指導」を行っている認識がないのではないか。もっと広く告知する必要があるではないかと思う。

(委員)

表面に出てくる問題行動の裏側には家庭があり、小学校低学年からすでに自身を否定するような言葉や態度が見れる。最近の子どもや保護者の様子を見てると自尊感情がないように思う。

(委員)

児童生徒、保護者への「支援・指導」の事例を伺っていて、かかわり次第で大きく変わるのだと思った。さまざまな問題行動の要因を家族に課してしまいがちで、特に母親は孤立しやすく子どもの育てにくさやしんどさなど、どこにも言えない状況にあり、援助が必要である。

(委員)

世代の価値観の違いを感じる。保護者の立場、生徒の立場それぞれの立場がある。迎合するのではなく理解してやる。又、小・中・高等学校の連携の強化に努めていきたい。

(委員)

小・中・高等学校それぞれの段階でやるべきことがなされていないように感じる。今の高校生は精神的に幼く社会性が乏しい。子どもたちは叱られることはあっても褒められる経験が少ない為、「認める」ことの大切さを痛感している。

(会長)

小学校、中学校では情報の共有とあらゆることに誠心誠意接すること。高等学校は子どもの視点で見ていくことの他に行政の力量も問われてくるように思う。

(委員)

日本では「カウンセリング」に対して苦手意識があるように思う。身近な人が教えることや、親同士が情報を共有し、繋がりをもつことが大切ではないか。

(委員)

保護者の意識（コミュニケーション能力の低下、モラルの低下）として、自分の子どもには関心を示しても他人には示さない傾向があるように思う。

(委員)

今の子どもは遊び方が下手である。仲間の中でルールを守っているが、一定の距離感が保てない、感情のコントロールができないなどの課題がある。親の意識を変革するのは困難であるが、子どもに対してもう少し肯定的な対応ができればよいのではないかと考える。

(会長)

本来、家庭や地域ですべきことや包み込む温かさがなくなってきたように思う。

(委員)

保護者とのチャンネルを結ぶことができれば何か関わりがもてるように思う。「困っている」と言う声があがればそこから関係が結べるのだが、社会や地域との関係が良好でない家庭に対してどのようにすればよいのか課題である。

(会長)

現状は保護者や社会的背景にも課題が山積しており、家庭力の低下と共に繋がりがもちにくい環境にあるのではないかと考える。

2、協議事項（2）

〈事務局説明〉

（2）平成22年度川西市青少年センター事業方針

概況

平成22年度の重点事業

業務内容

【質疑応答】

（委員）

今年度を振り返り、青少年センターや各学校、警察等の連携がよくとれていたと思う。素早い行動連携や対応が問題行動を未然に防ぐのだと痛感している。

（委員）

非行の低年齢化、オートバイ盗が増加の傾向にある。春休みは非行が増え問題が多発するのでパトロールに重点を置いている。

子どもは吸収力が早いとその反面、影響を受けやすい。伊丹市での集団暴行においても、漫画やゲームの影響が大きく特に暴力行為が大きく取り扱われている内容に影響を受けている。

（委員）

保護者や地域も子どもたちが何に興味関心を持っているのかなどの動向を知ること大切である。

（委員）

～平成22年度の「川西の教育」第4次川西市総合計画後期基本計画 教育施策の方針より～

地域社会全体の総合力でもって、学びの協働を深め、公教育の質の向上を図っていききたい。

学校、地域社会の連携を視野に施策目標を掲げる中で情報を共有し、組織・チームで、創意工夫と実践即評価の実効性を図り、信頼の確立に努めたく思う。

（委員）

青少年センターにおいては「センターだよりの活用」「薬物乱用防止教室の実施」青少年支援課と連携し「青少年ふれあいデー」の意義を広く啓発していくことも工夫願いたい。

（委員）

子どもは、地域社会で安心して育てていく。昔の子どもは自身で危機管理が出来ていた。今は、周りの大人に守られ、育てられているのだと思うが、そのことをどう感じているのか。

学校、地域、親の役割が明確であり、実行できることが望まれる。

（委員）

地域でも「安全・安心」については青色回転灯装備車両の巡回パトロールなどかなり徹底された見守りはなされているが今後も行政としてのフォローをお願いしたい。

又、合わせて「こどもをまもる110番のおうち」の拡充とともに整備もお願いしたい。

閉会